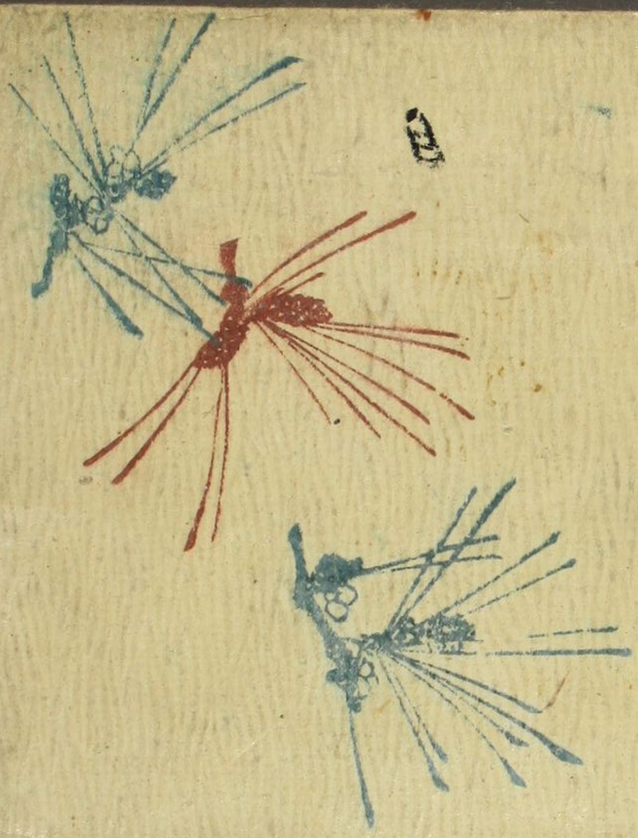

土佐日記に明州(メイシウ)の浦にてよめるよし
とかゝれてよめるなり
とも書て湊と有
ば一の語をうつしとは
頌にて附する者有
ばそれと用ゐらる
あるべしこはおろ
この京にても此
こゝろもあるて
言おもひてかくよき
しめのこ

頭書古今和歌集遠鏡巻第九

羇旅哥

もろこしにて月を見てよみける　　安部仲麿

天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出し月かも

○今カウ空ヲズツトハルカニ見渡セバ　アレ／＼海ノ上ヘ月ガデタ
アヽアノ月ハ　故郷ノ三笠山ヘ出タ月デアラウカイノア

此哥ハおもしろきまゝをもろこしに物なくて
きこえつるまゝにおもはれつゝをこそえさす

巻九　羇旅歌
巻十　物名
巻十一　恋歌一

篁の流されしハ仁明天皇承和五年なり

うでこぎりなる事此歌より又つゞひまくりいさり
なるふたくひく波うできるんとて出さりなるふめ
いまうとのふところのうへ子て此の歌の人が女
の子これむけしなりよる子あって月のいとおも
しろくさし出たりけるを見てよめるとなん
わたり流くふる

おきの国子ながされける時子船子のりて出たつ
とて京なる人のもとへつかはしける

小野たかむらの朝臣

みかの原ハ京より海上へハのぼらく
年ろ事をミ所
海京より百里同じ

今日三日とつゞくべく
なくして一日の和ハ京
京よりハ三日ばかり
の行程なれバ京へる
とんねべきと読て
ある也

わたの原八十島かけて漕出ぬと人にはつげよあまの釣舟

○ユクサキハイクラモナイ島々ニアマタアル島々ヲさしてイク（年海上へ今出船シタトミヤコノ人々ニハシラシテクレイ コレアノアチヘ渡ツテイクアマノ釣舟ヨ

篁村結句の読つゞけし

題しらず　　よみ人しらず

みやこ出てけふみかの原いづみ川かは風さむしころもかせやま

○今日京ヲ出テ此ミカノ原ヘキテアノ向ヒニ見エル山ハ鹿背山ヂヤガ 此イヅミ川ノ川風ガキツウ寒イニ アノカセ山ヨ 才レニキルモノヲ一ツ借セ山

をゝでゝ名ハとゝ
むくあ[illegible]
業平の[illegible]
めゝ[illegible]
とゝ[illegible]
[illegible]助[illegible]て[illegible]
[illegible]ハ、
[illegible]
あづまへくだりしの
のゝ[illegible]
[illegible]
舟[illegible]
あれとおもひ

万葉ふさ人まろの西の国へ門出のとき
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二の集の詞ハ経くやうをおもと也

千鳥ハ二の句のひゝき、磨月山を聲とのいとゝけあり、所ハ[illegible]

不のぐとゝのうゝの浦の朝ぎゝ[illegible]

○夜ノウスゝトヤケテクル時分ニ海上カラ見レバ一面ニ一ツ明石ノ浦ガ朝ギリデカクレテ見エヌヤウニナツテイクアノケシキヲ[illegible]見テ[illegible]ニテイク　此歌中ノ心ハ　サテモ〳〵心ボソイモノガナイ〳〵ギヤ

此ハ[illegible]ある人の[illegible]

此[illegible]

[illegible]

はゝ[illegible]

おゝ[illegible]

里、[illegible]材[illegible]

[illegible]

[illegible]

ず、[illegible]

と、[illegible]

[illegible]

舟[illegible]

あづまの[illegible]

[illegible]

子業平の歌と人
ゴ行ぜしよりて京ま
ゴ平知ぐくう八の
集の歌ともちうと
てそれよ紀を多ク
く人あるひ業平人
みどせ一地あるを
題目ごハの知が
たり八この集あり
あるものとゆひて
俗たゆひ業平と
して得よめせ知ぐ
うとうとうて古集
の紀ヨラハ一まず
ずくあるせ一注目
しもあるハ知の
徒をもて得よき
ゴハ一くかやまし

いきろう三河の玉八掛といふとろまいうれり久ふ
その川のそとうまきろだこいとおりろくさろう
けるを三てあの陰ふおりろてうきたびといふい
つりどをくのうらます忘て旅のゆをよあと
てあるろ

在原業平朝臣

きくあれあ一清四あ北ぐきる旅をしぞ忘ふ

○

一 きつつなれにしつまびとゝ妻ガアレバ別レテハルヾ一来タコノ旅ガサコロボ紀ガナレウ忘ハル、

むさしのゝあとあるあふきれあとのやまあるす

角田川これヨりれバ武ゥ邦と十経の里ホて今ハ二十げりと云ところヨ本まぐ川とゝありとあるべし今すぐ川とゝ云ふ字すあてつけうくゝまきゆあれバ系ホそゆメあまりくくうくうありん

ゆうぐ川のそとうまいうてそやこのいと意しうおゆ
えれれバ考ゴ一川の陸ろうまりあるく美里
バ考ろうまくとやくくもきるハろうるとゆひこ
ゆ一きめをるまうこ一あうそ毎まのれ日
もこれをくいひ生ず形まのうく後らんとすう
ふこるる人ものゆ一くそ系まゆふ人なくこを
あゆ考ざるうまを白き考めをくとあとゆう
きゆのそとうまあそびれうこ系まハ又くあ考れ
里れバこるる人又考ゆ後一ゆまこれハ何考

ぞとこそ花バ三ヨ子ん三や三ヨこのひるを安
てよある
名ふ〜おぐいざとこ人ん都名コゞ名ふ人ハありやあ〜やこ
○都上ニコヲ名ニツイテ居ルナラバ ニヲメテ京ノイラヨリ知
ニテ居ルデ アロウホドニ ドレヤモノハウ都島ヨ コヲガ名ウ人
ハ全事デ井ルカ ドウヂヤ
歌しゝ
少ハ行程ぞ名く知ろつれて二て救ハこでぞかろ名ろ名ろ
○北ノ方ヘイヌル程ガリアレニテ呼ブワイノ ワニバカリカト名ハバ

ア程モツレダシテキタ友ノ救ハタラヌヤウニカツテサ隠ルテアラ
ウツレデアノヤウニ泣テイヌルトハんエル
は言ハあるる人男女ものるふ人の名人ものうけ
ものこそあろういろてするたちこあろうまれ
バ女ひとり乗ハろアリるる乗ろ隠程の嗜ルこ愛
てよあるこあるんいあ
あづまのろさより乗ハまうでくこくろまてよあこ
おし
山ろこ民生の乗ぞこくめ〜きいづれこやこのさろひあるこん

ものほハ情まるあ
あづろう言ものとろう
あハせてくき入ル
あり

元ハ父ろ夫ろ乗ぞ
の志国の仕よてく

○ドノアタリガ糸ヂカクノ山ヂヤヤラ　序時モ早ウカヘリ　タウ

見ヘバモウ京ノ山ガ見エルカ〳〵ト気ヲ付テ見ルケレドモ

ヤヤラレヌ　アヤウニ山ヲカクレテ　ハツキリト見エヌ春ノ雲ガ

サキコエヌ丁度ヂヤ

あしの末へまゐる時ときこゆる山を見てよめる

清ちろる所ふれば白ちゐ〳〵山の名ハ雪ぞあさなる

○ノコラズ消テレヤウ時ニハ十ケテ　イツデモアノヤウニ雪ガアル

此北ハ海ノ白山ニテ山ノ名ハ雪ノ下ヂヤソイ

あぢ波名々とゝろまちぐ

あづまへまゐり給ふる時ゆきのよめる

清ちろ白き

糸よりもなほあさく思ふくまもなほ白ゆきの

○上ヂデモ糸ニヨレバ細ウナルヂヤガ　カウレテ越ヘテ別レテキタ

猿ノ名ハ　ツノヤウニ糸ニヨルモノデハナイ　サテ〳〵アブナウ

名ハルヽ十ナ

ひの宮へまゐりける所にまくらよめる

見つね

枕を書きておくちろ重をもちてひつくるまの枕よめるこびなを

この歌を此集のあるべきとこゝろ得ぬ事なり　なぜとこの人のいにしへ人なれば　ゆきの源氏おくりふる出のごとくなれ

あゝ人但三の城跡
といふところの場所
ろ[illegible]しの浦八幡
宮あり名所のあり
いくこゝろとゝまりぬ
とゝろ

○はゴ只夜ガ明サ草ハ素ガフッテアルライク夜カノモヤヲ
ハラウテハ子ハラウテ子野ノ草ヲ枕ニシテモウハヤ何ヲモ
何ヲモ子タ

たちまのゆのゆへはるる船よりこれ浦よい
ゆよりゆりてタさりのクれいひこうべ[illegible]
ゆあり[illegible]人こゝこよこそ[illegible]つゝぐまよある

義系ゐすけ

タつくよおぶろ子きをあらげ二見の浦ハあけてこそ見あ

○三はこ見ノ浦ノそレキヲ見タイモノ行ヤガコヨ兵霄月夜
デ一ダ影ガウスケレバハッキリトミエヌニ夜カ明テカラサ
トクトヒヤウ

これろのこゝこれとるまろうホまり[illegible]船よああ
川とのふところの川のやろうよありあくさけ彩
どのこゝろろいぐまこゝのいひ[illegible]くかりしそあ
まのゞ[illegible]よいろくいふとくとよこそさろぐきハさ
せくのひ[illegible]ゞとよめる ありくれ[illegible]ありひくの朝に
ひきくゝ[illegible]たゞゞくつめホ有ゝん天の海ホ家ハきゝまろり

○此方ハ七八今日八一日狩ヲシテアルイテ コレハ〳〵天川原ヲキタロ

天の川八河内ノ郡
郡ヨリ有リ
わくのあまなかと
ハ[illegible]かとゝろあり
こゝハ怪しゐ

イロモクレタニ サテヨイ所ヘキタ 天川ナレヤ タナバタニ宿ヲ
カラウ

ここあの方をうろ〳〵よろうろうろ〳〵えもず多り
トウ〳〵カヘガ デイキモズバ
ふるまバさるよ待りうろよろう

きのあり法ね

一ヒセ子一ぶきまゝ者ほてバやどうゝ人もあるぐるぐるそ名ふ

○イヤ〳〵天川デハ一年ニ一度ヅヽ出サル彦星トニ五ノ方ヲ待
ヂヤニヨツテ ナカ〳〵外ノ者ガ 宿カラウトニタトテモ 借ス人
モアルマイトサ存ズル

寛平上皇ヲ中心

此ぶハ子猫をろね
うり猫提まゝまく
らはぶへつる年月
のとろ子同じうり
あぶとと句ど切て
こゝあぶ〳〵
よふ〳〵ハ方ふよ脇
こと出ることろも
あるよ分て こゝ人
のおこてふてこゝぶ
ハるろ〳〵の集々
その方のこゝまろ
しめとて こゝとこゝへ
こるもろ〳〵たぶ

朱雀院のあくふおちゝおりろ月よ子白山あて
よめる

すぶくの別尼

此ぶび名ことろうあぶ子白山ゐを毛ぢ扶殿 弁乃とり

○此度ノ旅ハ公供ニ立 又サモ用ニ致サレニダ ソレニ立 神ハ乃んマカ
セニト存ジテ 即チコノ山ノ紅葉ノ錦ヲノヽ手向マスル

素性法師

多ぬけよハぐりの袖もきろぶきふ紅葉ふよあ名弁やク人さん

○神ヘノ手向ニハ 出家ノ身モ氏トホリノ袖ナリ氏 切リギニテ
麻ニシテ手向ルハズ ナレドモ コノヤウニ見ルナ紅葉ノ錦

とゝろと手ねるとゝあるべし

ハラ一ツハイニ立テ此座ナサルヽ神ナレバ　此ヤウナキタナイツヾリノ
切レナドハ此度ハナサルマイ　此度ハ手ナサルデカナゴザラウ　ソレユヱ
サレヒカヘテ手向マセヌ

頭書古今和歌集遠鏡巻之第九

鶯の名をとりて
まくらにのせたり
へとよめり
此歌はよりてのち
のちまでよくしらるゝやま
ほうらうがつたる
し

人をとよまし　おる
ハ　わがよゝ声を発
づるまつりて人の云
さわぎ　おひさわぐ
をいふ

頭書古今和歌集遠鏡巻之第十

物名

うくひす　　藤原としゆきの朝臣

心から花のしづくにそほちつゝうくひすとのみ鳥のなくらん

○オノガ心カラスキデ花ノ雫ニヌレナガラ　ツライコトヂヤ　乾カヌニト云テ
テ鶯ノヒタスラアノヤウニ鳴クハ　ドウスルコトヤラ

ほとゝぎす

くべきほど時すぎぬれや待わびて鳴なる声の人をとよむる

○郭公ガ待ツ妻ノ来ベキ　ジセツガスギテ　コヌカシテ　一ヂカラナテナク

アノ声ガ人ヲビックリサセル　附香のうへは意の分

鮮材ヨロシ〜　折ヒメヨロシ〜但〜結白の紙ハヨロシ〜

うつせミ　　存寸表げる

涙のうつせ見れバあぶてこぶれるひろふ神ようるるやん

○涙ノ多川ノ瀬ヲ見レバ　水玉ガ　トントマコトノ玉ガサチルヤウ

ナワイ　アノ玉ヲヒロウタナラ　ホンテ玉デハナイホドニ　袖ヘ入レウト

シタナラ　ギキニ消ルデアラウカ　鮮材ヨロシ〜

久〜　　壬生太夫

たりとよりもあれて玉とつまあやはあんなれとうつせん

○寒夜ハ袖ヘ入レウトシタナラ　ギキニキエルデアラウガ　エスハシヤルガ　テ

モ神ヲオイテ外ニ玉ヲツクウ物ハナイハサテ　スヤキ夜ハ袖ヘ入レデ

コレガサンレデゴザルトステ　ワガ神ヘウツサツシヤレ　ソレモ見セウワサ

折ヌヨロシ〜　鮮材ヨロシ〜

うめ　　よろしくゞ

あるうめふ法ね折ゑ〜ぐくも見ぬ多意〜ゑぎ香ハ不見ひつ

○梅花ハヤレ〜ウイ物ヤ　一モナウ花ヲアレマイサウデ　目ニ常

住見ラレウニモ見エヌコトカナ　ソノクセアトデ意ガリサウナ香

ハヨウニホウテサ

あるあるあるあるる

げく初しめの八初

の句ヨウ〜セウ

ふくとハ吹ヲ出ヨ
つきてうやまうそ
とゐぐくとゐ又
[illegible]
ぬきまるゐつゐれ
とゐ〳〵ゐ表
おどおゐるども
づくとゐ泡人の
ゐゐま大をもゐ
ちゐそゐくとゐ
り

おゐゐハおゐひゐ
ゐきおれとゐ泡
ま久〳〵くまのゐ
ゐをゐふゐりそゐ

ふもどゐ〳〵

ゐ〳〵ゐき

ゐづきどを泡のまゐふハさゐ〳〵ゐて泡ふくどふきまゐゐ

○海ニ浪ガ立テ水玉ノチツテキエルノハ玉ノヤウナガ ソレヲホツテ玉デヤトゐウテ 其海ノ底ヘハイツテ取ウトスレバ 浪ノ中ニハトウモ手ニアタライデトラレヌ ソレデ風ノフク度ニテウド底ニアル玉ガウイテハレヅミ ウイテハレヅミスルヤウニアルエル

すゐ〳〵の部

今いくら寒〳〵おゐれバゐゐひすもあハれゐてゐゐゐまり

○モウ春ノアヒダハ十ホドモナケレバ ソレヲ残リゐゐウゐゐテ

ゐ泡ひすゐゐゐゐ
ゐゐ泡ハ泡ゐハさ
ゐゐ〳〵ゐとゐるハ
あやまりゐ

人上同ジヤウニ雪ヒニキサツイカホニテ 物ヲイスルヤウナサウ見エル

ゆゝやゆ

ゆゝゐゐのゐ

○あふゐゐもゐのハゐをゐゐ無〳〵ゐれ不ゐスとゐゐねてゐゐゐ

○逢フタラウレシイハスグヤニ 逢ヒナカラモ ヤツパリソレデモサ カナシイ

ワイ スハダダおレヌサキカラハヤ おレルヿヲゐウニヨツテノサ

たちむゐ

をの〳〵ゐげ

あ〳〵引の山ちゐれ彩雲のやゐゐ雪めぬせゐゐ育ゐれ

○山カラゐハナレテイク雲ノ上マリドコロノ定マラヌ ヤウナモノデ

トニト行ク末ノサドリモナラウヤラシレヌ世ノ中ダヤワイ

ゐ泡ひすゐゐゐゐ
ゐゐ泡ハ泡ゐハさ
ゐゐ〳〵ゐとゐるハ
あやまりゐ

此歌ハ山ちゐ雪と
あゐ〳〵ゐを落ま山の
ゐゐをゐゐ〳〵ゐ
ゐゐ〳〵ゐゐ〳〵ゐゐ
ゐゐ〳〵ゐハゐゐまで
ゐゐゐゐ〳〵ゐまの
木山ゐまの木ゐと
ゐゐでゐゐ〳〵ゐゐま

てうあハうこ

和名抄ニ蜜柿トシテやまうきとよめり

をうこまの木　　ちちのり

おうをうこの木は花うけがゝ〳〵

ゑよ〳〵柳のよりの濃ようびをうこ女のきゐとよめらん

○吉野ノ滝ハウキデハ水ノ泡ヲ　人ハ　玉ガ出テキエルトヨルデアラウ

ウガ

やまがきの木　　よこ人ゑこず

横井千秋云山柿ハちひさくかゝりて形ち柿ニて世ニ

信濃柿ニとも云柿ともいふ又柿ニ異柿とゝふる是ニ

秋ハきゐ今やまがきのきりくすまゝおぶ沈の きゝさふ

あ氏ハ冬の如くしてうゝハ桂ニ蟹の

ちゝおハあらん

○秋ガキタコレデハ風ノ寒サニ　マガキノキリ〳〵スガ　モウ　オツケ

ヨウ〳〵ヒグデガナヒラウ

あふひのつゝ

かくだゝ　あふひのまれなる人をいふ也とおもハさるべき

○コレホド二逢フガヤレニ　ヒリタ人ヲ　ドウシテウライ　ガハス二居ラ

レウゾ　ソウ　名ハイデハ

人めも名惜しあふひのもるゝくハ　ひろづつくきまやぶひまくれハ

○人目ラツムユヒニ　コレカラ好ニモシ逢フ　ガ　ヲ　ウ　タナラ

ソノワケハシラズニコチガツライノニナルデガアラウ

てふハ蝶ときこゆ
めのあれバ云出てあ
まりそれ物名の意
つらぬ人とおもへよ
あり蝶ハ羽生あ
くにも和名をハ
すだく新撰字鏡
蝶の和名かはひらこ
といへどもこゝち
のくるしハあまび
らとこそよし

くたに

僧正遍昭

ちりぬれは後はあくたになる花をおもひしらずもまどふてふかな

○花ハチツテシマヘバ後ニハ芥ニナツテナンデモナイ物ヂヤニ ソレヲ
エガテンセズニ アハウナ 廿モマア 花ニマヨウヿカナ

さうび

つらゆき

われはけさうひにぞ見つる花の色をあだなる物といふべかりけり

○オレハ花ト云物ヲ今朝始テ見タガ 花ヲバ世間ノ人ガアダナ
物ヂヤト云ヂヤガ 十ホド見レバ アダナモノト云ベキ色ヂヤワ
イノ おもしろし

とこなめしとよむ
への涸ほうとめとこ
あかしをされどこゝ
ハをとるべしと云
へしまるへし
きらハ蛛之也
ら毎にすゞ糸を
解するこもの似と
れむずかしとよ
あり

をみなへし

とものり

白露を玉にぬくとやさゝがにの花にも葉にも糸をみなへし

○露ヲ玉ニシテツナグトテヤラ 蜘ガ女郎花ノ花ヘモ葉ヘモ一面ニ
糸ヲ引テカケタ

朝露をわけそぼちつゝ花見んと今ぞ野山をみなへしりぬる

○女郎花ヲ見ヤウトオモフテ 朝露ヲ分テヌレヌレアルイテ 今
日サ野ヤ山ヲドコモカシコモミナトホツテ知ツタ

朱雀院のをみなへしあはせの時にをぐらといふことをくの
かしらにおきてよめる

二ハ八そのあるまる
嵯峨の小倉山なり

とぐ〳〵山ふね三ぞ三ぞ形く鹿のへまりん林をあるく人ぞるまき

○小倉山ノ峯ノアタリヲアチコチアルイテ居ク鹿ノ コレマデノ
経テキタ林ノ数ヲサ 何ノ年ガヤカシル人ハナイ

桔梗の字音

きちかうの花　ことのり

あきちかうのハあるイはかうの云葉の意なるも色ちかうの花

○野ノチキヲ見バ 冬ガレノ物ガナイ時岸カ近ウあ名
イ 雲ノオイタ茅ノ色ガカハツテキタ　林しハあるる
しき時季をいろ〳〵さる 林の紅葉ふ

紫苑の字音

紫苑ハ唐書の結ゼ
ところハ唐書の結ゼ

ハ毋ぞふ三ぞあどあり考ハ合すべ〳〵

あをれ　　さと人あをぐ

ゆ〳〵とそそいざあるの芝見ん とらをまあのぞうろひよ

○ドレヤ考ノ在所ノ花ライテ見ヤウ ドウ〳〵ムウテ　ワザ〳〵キタモノ
ヲ モウサ色ガカハツタツイ

アさ〳〵ん の ち形　友のり

コろやどのあやあ〳〵あぞ〳〵とまうたんの芝見ばやこ系

○コチ庭ノ大事ノ花ヲアマ〳〵アテス アノ者ヲオウテヤラウ 結ム

野ガナイカレテ トカクコヘ来オル　あぞ〳〵ハ去のぐと本

日言あり。

とぐるま　　よこ人ぐるま

とぐるまハ尾花あり。赤芝の花ところ〳〵まじるの色ノ

又あやまりあり。

ゆうとうそ　ゆうとうそ　ゆうとうそ　ゆうとうそ

○物ごとの世中ノ事ハナニデモ　有ルモノヂヤト名ツテ　新ミニテ

モ　ゆうとうそ　ゆうとうそ　ゆうとうそ　ゆうとうそ

ヂヤト　いうケヲツケルガ　ヨカラウカイ

けあご〳〵　　やたべの名義

寒キ時ニ用ヒル名ニ

まあぐろとも云フ

ぶり花ハ今云ヒ

ぶり花ノ花ニ接ス

うちつけ　ふこ〳〵　とやもの色ト又ムラ白黄ノ色ムラ　ハ　ラ　ヲ

○花ヲ見テサツキヤウノ濃イ色ヂヤトヒヤウモノカ　アレハ花ノ

色ノコイノデハナイ　オイタ黄ノデヌレテ　ソレデアノトホリニ

濃ウ見エルバカリヂヤモノヲ

二條ノ后ノ宮ノ　山田僧

づまの花さそり　ハ　ラ　ヲ　オヨミヒ　ナイ　ヲ

ゆうとうそ　ゆうとうそ　ゆうとうそ　ゆうとうそ

○此ぶり花ヲ見ルスベ　花ノ咲ベキ木デモアルヽイケレド　花

ガサキさしタワイ　秋セバナルベシイ木ヘモ木実チルヤウニ年
ミリさしタ私ガ此身モドウヅ立身イタス時節モアレカシト
秋ヒミスル後デゴザリマス　終村ヒの白ハ初の花いとゝ花い

きのうしさざ

ちりぶぐさ

山ちさくつねまあくしの吹とハあのちあずあもぢちりぬる

和名抄ニ青の花あゝ山椒衣ニ名烏葉ちのぶとさと云ふるこれまて古き新おうき筆書どこ生ちうものゝ

○近所ナ山ガちサニ　ビヤウブウ　嵐ノアク里ハ花ハサ　咲テア
ルマモナヒニツイ義デ　ヒヤウフイ　おなじ白の花もろし

平あつや来

やまゝ

附ちうねのちくよやまあゝつまあゝあうとハきげどえちこのしちちさき

○時鳥ハ峯ノ雲ノ中ヘトデイタカレラヌ　アンコウデ鳴ト　ハ変エルケレ
ドドウモ形ハ見ヤウヤウガナイ

ちゝたぎ

ほゝ人しゝだ

子杖ニ清茎ちの立秋ちの附ち人長ちれちる茎の枝を
拾ちくあり一孔を拾茎ちくふよ　龍源抄ニ　おぐらるる人えん
又いとちろく杖ちをざ残ちろやうなぎ　おぐ　深色ち
清ちもちとちくうされバこまいかとちくうをぎちいあうち
京ちニの白かくちを木毎ちとあり名んを影の茎ちを茎
よあやまりて京のてふをんをもちをちをちとより一段

つるものよハあくゝ行

うせるの久ふきでふでむれゞたゞの形人を見ぬゞ悲しき

○蝉ノカラヲバ スギステ、ドノ木ニモ〻メテオイテ 其身ハどこカ

飛デイヌルカ 此人間モテウドンナモノデ 人ゴヽニ死メバ ミナ

カラダヲバ棺ノ中ヘトメテオクデ カヽジンノ魂ヒトハ ドコヘトンデ

イヌルヤラ ユクヘガレレヌヤウニ ホツテシヘウノハナ カナレイ

チヤ

おゞ文よろ〳〵

かさるゞさ

こうゞ文の麦子ノ方ハゞ文ごまんうふゞるもあるめこうを

○蓮タイトゞフ人ハ麦ニテモ見ルバ心ガ井ルト云フナレバ 一麦ニ

見メバカリデイトウレテ心ガ井ヤウゞ シヤウジンニ蓮デサヘ ゴタ

ラヌヤウニ見ウ心ガヤモラ

さゞりこ子

たゞむこのうちたる

おの〻ハ花ゞ三ツ〻ニ分れゞる久すゞくぞつめハ三ツ見えけるか

○花ノ色ノ濃イハ多ツタ子サカリデ ロウノ色ハカリナレバ ヒ

ニ麦ハ 毎朝毎晩ナベンモノ〻サヽメルワイ 多ツタ子サカリ

ナモノヲ ソヤウニ深ズトモヨイフラ

あゞらけ

ちゞけたる

苦也と云ノ孔子
ろザ一気ハ玄なる
吉めの性とさいふ

和名抄ニ若竹ハ
ふかさけと云るなれ
ばなり

ふかさけハ次なるさかさけとこもすぐびくの名あり
つぎ物語子ありや　○和名抄云ふかさけハ若茸
ふかさけハ茸茸ともいふ

いのちこそ露とともにもかゝれバおもひしらるゝ野べの虫

○野ベノ虫ハ　露ヲ命ヂヤト思ウテ哀ニナリニクイ
カナイモノヂヤニヨツテ　雖義ニ露ノカナシガウニ鳴ク

ふかさけ
すけのいれ王

さよふけてかたぶさけ秋えるの月吹かへす秋のやまかぜ

○夜ガフケテモウ半分ホドモタケテイタアノ月ヲ东ノ方ヘ吹カヘ
セ秋ノ山ノ風ヨ

口合
藪を蓁火はさらり子
せりふ昨日すこよし
の山のなにとけ
さくれハ思ひびのも
きるゝみつりあけ
らず皮子よめるかお
あし

いさかめハ木の子
ぶとらさてもおそく
めとよ逆字こねとも
ふさそてゆるめてふ
そこと八せかる

こゝび

しんせい法師

畑にもちゃらなるぬ子の恋ぶせたれかゝらびとおぶげそめけん

○ワラ火ナラバ　畑モキツテモエルハズヂヤニ　畑モタヾズモエルハ見エヌ子
ノ葉ヂヤ　モノヲ　誰カワラ火ト云　名ヲツケソメタコトヤラ

いふ秋云この意ハお名のよさかまほあら
ざま一バ此説子なべきよあらず。

さて　まつ　びハ　そせをバ　きのめけと

いさかめ子附おつまあるてひとあるんぞせバひとふええ治く

○近イウチニ逢イニセウトタガヒニ約束ヲシテオイテ　其日マ
デハ　ツイヅツカノ間ダノコニふウテ待ツテヒダ二十　大分日数ガタ

ツタワイ コレデハトウアラウカ 逢ウイハ心モトナイモノ哉ヤ

逢ハウト云フ心アヒヲバ人ニ知ラレテ アヒ 逢ヒ 約束セネバ ヨカリツタニ

ふゝ 形つめ ふゝ 雲雷

あぢきなし〜形がきなつめそうきことふあひ逢ひそめ多

○イウ〜サヅ〜ノウイコトニアフニノ来タ此身ヲエステモセズニ居ナガラツノウイ事ノカダ〜ヲトリアツメテナゲカウイデスナイ アヤムヤクナイ哉ヤ

ひゝとゝいふところふゝ春の五月の日あめ

あぢきなし〜ハムゝ〜しらるゝよりゝ〜しきらるゝふことこそなけきなつつのそハるぎさをあつめろといふゝ

唐ノ歌ノハ始ノ句よりあつまるところ

安部清行朝臣

涙の雨ハ降ぬ

○アヤ浪ノ音ノケサカラカハツテ少タ元人 式部卿ノ調子モケサカラハ春ノ調子ニトリテ キノフデテトハ改ツタカ ヒラメ

いろぐさき

ねるのおもきて

ぬぐふあるる涙のあづくを春かれバいろぐさきもちるゝくさえん

○舟カヂ〜アタツタ涙ノクダケテチルモノガ今ハ春ナレバ色ガチルト云ハレル トシテ花ヂヤ アレヲドウシテ花トハ云フモノガアラウ

卯のさきちるといふやどちるとこ惜しる去

かのかたにいつからさきに渡りけん浪路はあとものこらざりけり

り。おもふころし。

からさき　あほのつねみ

○見レバアレアノ辛崎ニ人ガ立テ居ルガ アソコヘハ今ムベテニ何時渡ッテ イツカラアアシテ居ルコヤラ 今ムベテニ渡ッタナラ 其ノアトガアリソナ物ナレド 浪ノ路ナレバ渡ッタ跡モノコッテハナイワイ

伊勢

浪の花おきからさきて散くめり水の春とは風やなるらん

○浪ノオシヨセテクルノハ 云ハヾ花ノチッテクルヤウニ見エルガ 此ヤウニオシヨセテ磯ヘチッテクル浪ノ花ハ アノ沖ヘサイタ花ガ 沖ノ方カラチッテ来ル拍子ヂヤ サテ花ヲサカスノハ春ノ事ヂヤガ 浪ノ白ウサイテクルハ風ユヱヂヤ スレバ水ノタメニハ 風ガ春ニテリカハッテ ソノヤウニ花ヲサカスルデアラウ おもふ説上句ふゝ子もし

かみやがは　つらゆき

うばたまのわがくろかみやかはるらん鏡のかげにふれるしら雪

○オレガ黒イ髪ガ色ガカハッテ シラガニナッタカシラヌ 鏡ヘウツッタ影ヲ見レバ ツムリヘベッタリ白ウ雪ガフッタ

よくうた

あり引の山べまとれば白くものいろまやまとそくさことき今記

○山里ニ住デ居バ　ジヤウ行ウ　世ニハレル日モナイ　サウナウテサ気

ノ心ツタ山ノ中ヂヤニ　何ノシトセイトヲコデ此ヤウニ世ヲ丹ヘ晴

ルトキヒナイーブ

ツクヒ

友ヲのうへぶあらぬまみ托ゆくさの巻き見ぶんる

○拙者ガ身ハ百ド　ウヘハ友ノ草ガバイハエシデツテ　アルヤ

ラナイヤラレレ　沼水ノ中モノデ　蔭人ニモシラレヌ

今昔おぐさうヨ五条西洞院ヨウ人ハ

の宮とヤ人ハ

まれ　そのあまま

るうくのまより

あまタクチまの

やとるこ　こ　こ　こ　の

とまるべー

和名抄ヨ百和香

あつくさ　ぶの　ぶう

立身モエセネバ　テウドヌツ沼水流レテ行　野チイヤウニ　枝

廿ヒ心ムカヌ　カナ　オモシロウナイフ　ヤ

ろくのこや

ほうどこ

秋ハれど月の四つくれ　ものあるひとりを　ちくれたろ

○ソウタイノ木ハ秋ハ実ガナルモノデガ　月中ナ挂ハ　秋ガキタ

上テ実ガナルカ　実ハ十リ　ヒヌカ　冬　秋ハ　ヨリサヤカ　光ヲ

花ノヤウニ　ウチラスバガリイチヂヤモノヲ　ソレニ世間デ秋ノ

月ヲバカリ　ベツニ賞翫スルハドウスルノゾイ

百和香

ものくべ

あらゆる香をあはせて
ねりたるをいふなる
べし後世の香の
緒をいふといふ
さまざまの緒の名
をいふにや

紙をすきて
て文字あらはるゝを
いふなるべし

匂ひてふあかずちらしし風あればいくそばくわがうしとかは思ふ

○花ト云花ヲドレモカレモミナ　残リ多イニ散ラシテシマウヤツナ
レバ風ヲバオレハドレホドフクニ思ウダ　タイテイ不足ニ思ウコデ
ハナイ

すみながし　　　　　　　　しげはる

春霞なかしかよひぢなかりせば秋くる雁はかへらざらまし

○春ノ霞ノベツタリトフサガツテアル中ニ通ツテイク道ガナイナラ
ハ秋キタ雁ガ春カヘリハスマイニ　霞ノ中ニモ道ガアルデ春ハカヘ
ルデアラウ

炭をおこしたる火を
おきといふ
流れいづるの歌
は沖にいひかけたる
ことなり
万葉にすみよしの沖
の沖にあたらしき
よめる

粽は飯をまきたる
菰などにてまきて黄
糸などにてまきて
大様我するなり

おき火　　　　　　　　　　　みやこのよしか

流れいづる方だに見えぬ涙川おきひん時や底はしられん

○流レテ出ル源サヘドチラヤラカシレヌ涙川ナレバ　マシテ底ノ深
サイカホドアルカシレヌカ　モシ沖ノ深イ所マデ　水ノ干ル時ガア
ツタナラ　底ノ深サモ見エテアラウガ

ちまき　　　　　　　　　　　大江千里

のちまきのおくれて生ふる苗なれどあだにはならぬたのみとぞきく

○後蒔ノオクレテハエタ苗デモ　ムダニナツテシマイハセズニ　秋ハ
ヤツハリ実ガ入ツテ於ミノアル田ノ稲ヂヤトイウ事ヂヤ　居ル　スレ

中学問デモナンデモオワガケガヤトニテ名ヲイヤウスナイヂヤ
お受ケの白れ涯俗ニ多リ
たをゝめるとたてあゝ おゞめをうけて時の高
よあゝ人のいひ入れバよある
俗正ヲ宝
もの多ゞめおあくやうそ分やけバんゞそこをふちりぬゞゝ多多
○ゾンブン自ニ見飽カト石立テ花ノ多ニトリステアル中ヲ分テイタバ
花ニ目ガ移ツテ コチ心ガサ 花ノイツヒヨニ アキコイト チリテイ
クヤウチ心モチガスル
書稿卷第十

春ともじめ稽ノ
してまゞめとこ行
と云のゆよそう
ハそゞそこうの時の
くゝをとあとこ式
まゞめハまのもの
のるの多ゞゝ

万葉ハ男女のお
ゝふとうのくゝ
物ゝ見生朋友の
おゝをゝうゝ
ゝるゝ おゝゝと長
して紙をおてゝ
と云て男女の中の
ミれ方のとすハゝ
集ゞたゞめゝ

太方ハおりひのひと
大まゝうゝしくゝ
るをこれハ彦ハまりく
て七日ゝゝくゝて

頭書古今和歌集巻第十土

恋歌一

題しらず

もゝ人ゝゝす

附言あゝやゝゝのあやめ草ゆゆめも恋ゝぬ恋もすゝ

○上ドヤウナウチ物ヤラ ゝカナ

書稿卷第十

ゝ木のゝきく比白ゝゝよるハおきて ひるハゝゝひゝあゝゞゞぬべ

○立ヨキ久バカリデ の立ゝあ ゝダ見タイモナイ今ゝ見ニテ 夜ルハ

子ラレ子バオキテ居テ貧又悪ケレニコタヘイデ 消サウニ

炎ル

紀ノ国

よ 狩川岩浪たゝくやくもゐのたやくぞ人をおもひそめて

○アノ人ヲオヽヤドウカラサムヒソメタ 又オガアスラ炎ラスハサイ

シヨカラモウ吉野川 早瀬ヤウニヤルセモナウ 思フ

○子秋ニ塔の塔乃 宝ハ きのくにぞねつ

たまうちの中ふもとぐハあり てきを ミ、おのこまろ

薬系 徳長

赤ノ浪のあとおき方ふ船舟も沈そたよりのたゝ舟ありける

青羽山八逢坂の西

南ふつゞきて実ノ方

西ハ山科あり

○浪ノ上ノ人ト歩ク跡モナイ方ヘイク舟デモ風トニノ物ガサ手コ

リノ案内者ヂヤソレニワガ高ハソノ上風イヤリナ タヨリニセウ物

廿ナイワイノ 餅村 お祝ともあるべし 餅をあてたるべし

薬系 元方

青羽山 おとゝ よ 少つゝあふ坂の関は こゑよ年どゝふ ゝる部

○青羽山逢坂ノ関ノコチラニアル山ヂヤガ 其山ノ名ノトホリニコ

ナタデ青ハキ ナガラ 関ガアルノコエラレ子バ コチヤニチヅトトマ

ツテ居ルヤウニ逢坂トハ名ノヤウ高フ人ニ逢ッテモエセバ 一の手

モタテルヿカナ 廿ラモ早ウ逢ヒタイ

[illegible]

○ひやうゐ六ナレテ居テモ　心ゞヤウヂウ　カノ人ノ所ヘバッカリイテ居レバ　つ自波　又ミテモ〳〵アハレ逢タイコヤトサウフ

[illegible]

法ろめき

世ハ〳〵ことゝ有名れやく風のめまぐるしき人も意〳〵ひろまる

○ヨノ中トゝモノハ一アカウシタフヂヤワイ　一アツタテトサレ　三

ヘダ一目モ又タフモナイ人モ　ひやうゐ意シイヂヤワイ

[illegible]

ひとうの日とハ時分の日のくるゝ

あやまくハるけもるく宇治ゐも日　なぐこよまど

車の下すぢれより女のうわれほのうあるとるれば

よゝそうゝ　ゝろ　在京形りひとの朝尼

ひとうとゝいあれハ神中抑の流れどくあるべ一

又ぞもあ〜ずれもせぬ人の意しくハあやまくるあやまぬ　くゝさん

○又又デモナレ又タデモナイ人分　ひやうゐ意シイヂヤガ　コレデハ

又モナイ一二今日ハ一目ヒキニ名フテクラスデアラウス

久〳〵

よゝ人ゝ〳〵

ゝゝ〳〵ゝ物ゝもあく分ていたんあひのこゝそゝ意〳〵ゝれ

○又タノ又又ノト合天物ゝ　ライウ一ゾソヤワモナイ一ヂヤ

来日所祭延喜式
ニハ二月冬十二月
雖上巳日登山
あり

上の句八序之

来り降の雪ゐとゆてあひあつる者のちらふ又〻〻君ハも
ハナニモドウコウトヒラフハナイワイナ

○春日野ノ雪ノアヒダカラハエデクル草ノチヅドカリ又エツ多
ヤウニハツ〻ニチヨツト見エタホウ方ワイイヤア

すがのまつふまろれりる時よ拾えよあつろ
人のもつミーりるふよまりてそありれる人のも
るる女のもとよ恋をとぐねてつりハーりる

みぶのくぐるね

こふ時よよ〻〻〻〻法るハーりる

つるやき

山桜ゐるミのまより花のうふもえて〻人ゐて来〻〻ゐれ

○山桜ノ花ヲ霞アヒダカラ又ルヤウニ ウス〻〻トカタ人ガサマア
サア〻〻来シイワギヤウイ

影〻らず

たよりふもあるゑ恋のあやーきハ人ハ人ふつるありるる

こもやるゆく

○何ゾノタヨリニコツ物コトヅケテヤルモノチレ タヨリテモナイ ハウシ
ガ恋ヒノ カハツタコトハ ハヤウニ心ヲワノ人ニツケルノギヤワイ

カウイフノハ　夕ヨリ二物ヲコトヅケルト　心ヲ人ニツケル上ニト詞ガ
同ジデ　ギヤミヨツテ井　鉾材ごろし　もやつてまるゝと
[illegible]

凡河内躬恒

はつ雁のはつかに声をきゝしより中空にのみものをおもふかな

○ソラヲ飛デイク始メテノ雁ノ声ヲ聞タヤウニ　人ノ声ヲハツカニ聞テ
ヨソナガラ聞テカラ　心ガヒタスラ　ウハ〳〵ニナツテ　サテモ〳〵モノ
思ヒヲスルヿカナ

[illegible]

[illegible]

あふ事ハ雲ゐはるかになる神の音にきゝつゝこひわたるかな

○コレホド恋シウ思ウテ居レ圧　ナカ〳〵逢ハレサウモナイ　モヤ〳〵ト雷イ
コデ　冬雲ノ中デ鳴ルカミナリノ音ヲヨソカラ聞タヤ
ウニ　音ニバツカリ聞テ月日ヲタテルヿカナ

よみ人しらず

かた糸をこなたかなたによりかけてあはずは何を玉のをにせん

○一筋ヅヽノ糸ヲ合セテ玉ヲツナグ緒ニヨラウトオモウテ　ソノ糸
ヲアチラヘコチラヘトヨリカケテ　モシソレガツニ合ハイデ　緒ニ
ナラズハ玉ツナグ緒ニハ何ヲセウゾ　ワガ恋モアウドソンナ物

デハヤウニイロ〳〵トスレドモレンドウ逢ハレズハ一ウセテ
命ガヅカウヅ　　俳諧歌ニ百首ニ百首ヲ
ろ〳〵これハ〳〵ぐさの〳〵ろ〳〵くんをつくりたるこゝろ
ろくるゝ男女のこゝろなくこゝをたゝくんるゝハ
らび

タヾれハ雲のたちそよわぢ思ふまつ雲あるくんをたゝて

○ユフカタニハ雲ノ旗手上ニテイロ〳〵ノ雲ガタツ物ナヤガ
テウドソノ雲ノタツ空ノヤウニ何シノ手ガヽリモナイ書イ人
ヲ思フトテ　ワレハユフカタニナレバ　ソノ雲ノハタテリヤウニイロ

新撰和歌集ハ初の百首ハ奥義抄神楽抄ハ百首の百人歌ヲ多ハ

イロ〳〵ト書ヒラシヘスル
ヤウ〳〵ものの思ひぶれてゝらぶるこゝろ妹ゝ〳〵めやくんしつげ
○前タヽコモ〳〵ダレルヤウニワレハイロ〳〵ト心ガ〳〵ダレテ
トスレヲ　妹ハ知ラウカイ　人カイツテキカサズバ　コレホドニ思フトハ
知リハズヤイ

唯

清ルもまき人をやねく〳〵多くの中くくハ子だきぬとハ思ノヒん

○三　オヨルトスレトハ子ルトスレハ思ウテ　アノアイツモナ
イ乳ヅヨイ人ヲ此ヤウニ思ハウカヤ　サテモクチラシイヤ
ドウゾ思フヽイヅ

ちつやぶるうれしやの四ぶ一日も君をうけぬ日をまー

○上 ワレハ一日モオ〳〵ヘノコヲ云ダレテ云ハヌ日トニハナイ

○ワレガ恋ハ サテチミカラヌ恋デ 虚空ヘ一ツパイニフサガツタサウナ

サウヂヤカシテ 公ヒラハ ハラシテヤラウトモ思ヘバ ドツコヘモ行トコロガ

ナカテ ナニボウデモ此公ヒガハレテ ユカヌ

すゝぐあるたごのうら浪ゝぬ日ハあれども君をこひぬ日ハなし

○此タゴノ浦浪ハ オホカタイツデモ立ツカ ソレデモサタ〳〵ニハ此

浪デモタヽス日ハアレドモ ワレガオヽヘヲ恋レウ云ハヌ日トニハデハ

ケガナ一日モナイ

タづくよさゝやぶ長の松ハ君のつつとゝとゝぬ恋もするぞ

○アレアノタ日ノ影ナキ長ク松 葉ハ四季共ニ同ジ色デイツモ云

ワカチモナイガ テウドクノヤウニワレハイツトニ ワカチモナイ恋ヲ

マアスルーカナ サテモ〳〵 子枝ニハ紅白タづくよ タづくよ 君ガ

公様ニさゝげまきをいつくよろずよ 長ベのまつの葉ハ

季節判よハ ちぐ 君ハ 年ハ

長ひて枝をよゝよハ タづくよと

日とあるハ年ハよりてよゝ 君ハ

ちぐれるこ ちぐ 君ハ

日とあるハ年ハよりてよゝ

ろハ〳〵ろ〳〵 そのうち紙ハ形〳〵

[illegible]の婦程ト八女の
のとそつくハ〜るよ
しのふ親たとあり
てスしとさ人者〜
ずまぐれてたぎ
つ山あひづれのめよ
しとそ人者と書也
そきけるさくう

あ〜ひきの山ト云ハ北こぶ〜れてこぶつんをせきぞうねはる

○山ノ陰ナ川ハ二ゲツタ末ノ千ヂカクレテ ヨシヌエハセヲ尼 ゲウサニサ
ヂ上流ヨチルモミヂヤガ ワガ袁モテウドウヤウデ アエヌヤウ
ニカクレテハ居ルケレド 胃内サヅサト瀧ニ流レルヤウデ ソレヲセキ
トメウトスベド 中ニセキトメラルヽデハサナイ

よの川いそきうとゆ〜形ゆの青ヨハたヂ袁ハ袁ぬさも

○吉野川ハケヌカラメ早イ川デ ドウ〜ト急デ 岩ヲ切リトホシテ
イヤウニスルドイ流レギヤガ ワガ袁モ 今ヲ内ハ吉野川ギヤ
ソレデモタトヒコレデ 死ハスルトエテモ 吉野川ノヤウニ 音ニタテ〜

人ニハヒラレイヅ

たぎつせのはやき浪ありてをまと袁ハかちもとも袁ぬき

○川ハ早イ物ナレド ヒレデモ其間ニハ 淵ガアリテ ヨドム所モアル
トラ〜ギヤニ ワレガ袁ハ ガセ 淵ヤ瀬ヤトヒヲワカチ ヒヤニ イツ
ツモ早ク袁ヌナ〜ゾイ

山ヒるゝ〜トゆ〜あの者ヒよのゝ流れてこひん袁ぬ者ぬ

○山ガ高サニ 上ノ方ヲバイカズニ 下ノ谷バツカリ流レル水イトホリニ
ワレモタトヒ ヒトベデアコヒジニ 死ヌルトエテモ 袁ベテラハレハスマイ
ゾイツデモ心ノ内デバツカリ袁ウテ居ヨウゾ

[illegible]ノ人ハ
[illegible]ノ人ハ
[illegible]ノ人ハ
[illegible]ノ人ハ
[illegible]ノ人ハ
[illegible]ノ人ハ
[illegible]ノ人ハ
[illegible]ノ人ハ

あのかうと

紅の花ハ未すのさき
ぬきと指ゝゝ
まつむむとやうと
雖もとゝもれども
まつゝ鶯の事ゞ
ゆくると指あの名れ
ハもあのべーゝ葉
まよそゝまのゝ
つやこひん紅の未
つむむのゝまよゝ
るとまろこれを
ゝ久ゝのゝ

ゑひづくまきハの山乃いそつゝじいろねハこゝあれ来きあのと

○の山乃 三 呼ヘタシテイハヌデコリアレ恋ヒダシタ片ニハシレヲ・恋イ

モノヲ

人ゑれず名ヘハムるゝ
○人ニシラサズ二心ノ内デハツカリ心フテ居レバキツウシ世ナイコレデハ

ドウモタヘラヌホドニ 三巳 イツウ中ヲ ダシテノケウ

枝の群の晨花ゆまじり笑笑のいろまやこひくあ山よゝしまゝ
○山ヤウニ心ノウチデハツカリ思フテ居ラズ トテモドウシテノモカウシテモ

逢ハレサウナモヤウガナサニシアゝシテ見レバ 上 イツウ中ヲ ダシテカ

ラウカイ 上ヨ おまの流よろゝ

つぐるの梅此ゑゝふぐひすのまよ春ぬぎ春もすゝ
○アチコチノ庭ノ梅ノ木ノ枝ニ鶯ガナクガ ワレモアノヤウニ

声ヲアゲテナキモセウ ウグヒスハホドノ恵ヲマアアル アフレモ

ナイーカナ

あ引の山やゝゝぎれ ひぐらしやあるよひつくらねぐそよすゝ
○夜ルモヨヒトヨ子ラレヌニヨルテ ツメテ居レバ トタモノ郭ハガ

ゆゑガ アレモワレガ君ヲ思フヤウニ 恵ヲシテ子ラレヌコトカイ

三巳の白ハ ひぐらしやあるよ春ぬぎやひつくらのあるとゝ

ゑゝハ上枝ヒトツ
つゑハ下枝ヒトツ
紀右弟 ハ自ノ
歩ヨ
ゑつゑハ人ゝ
りゑつゑハ
ゝゝ

○夏デイウナラテウド家〻ヘデタク城主天ノ上ヘアスハレテハモ
エズニイツデモクス〻トフスボツテアルヤウニマシガ身モ出サウ
テイツデ人ニハイハズニ胸ヲモヤシテ居ルデアラウ
ヌあれバ〻ヌのあふ〻ホとつ〻ふもぐとのさんぐさ〻
ぬかもびるもあ〻ろうれも月ごとあり
ヌセでとと〻〻〻ゆるセ〻こそぎ邪ふそげずそあろよ〻〻〻
○どウゾ恵ヲスベイトおもテ四ま洗川でしなもぎヲ神ハよろく
ロウケナサレヌサウナワイトアサウカシテ子カラ恵ガヤ〻ヌ

あれてふとどまるあくハ邪よもろハ恵のこぶれのつねをふちん
○ホヒガ胸ニツ坏ニナル件ニハ声ヲアゲテアヽハレアヽハレトイヘ
バコンスコシハ胸モユルマレツノアヽハレトヨニサヘナバ恵スルモノ
ハ何ンデ心ヲヲサメウソテウド萱キルヲ苅テ乱レタ時ニ
一トコロヘトリアツメテ緒ニスヒカ子ルヤウニ恵テ心ガ乱レタ時ニ
ハアヽハレアヽハレトヨノガ東子緒チヤ
ろふよハ恵のやうてぞまをふ〻〻毛よそ出ごとふひ〻おを
○ナボレノンデアんデモふウ方ガッヨイニヨツテトウ〻シブ方ガサ
ヽケタワイイツデモ色ニハダスマイトムウタモノヲ

[illegible]人[illegible]の拙[illegible]

○此面リニキツウシレバ ロシガ[illegible]スルハ 人ガシラウカヤ タレモ知ル
人ハアルマイ 拙バカリコソハ 夜ル〳〵シテアルモノナレバ モシ知ル
ナラシリモセウケレ

陸奥茅生のをの[illegible]

○一 二 此ヤウニ忍デ[illegible]ラトエコモ 君ハ知ウカイシリハスマイ 三ア
キカス人ナシニハ

人[illegible]

○人ニシラサヌコ[illegible]ヒトシタイ ワイ 三 マヂカイ呼チヤケレド

陸奥茅生ハ小草しい
さん冠辞とあづと
つくんくてあのく
しる

[illegible]ナセニアハルモヤツナイコツ 手枕ニ二の句なくてのど
[illegible]ど、歌注新古[illegible]ふ[illegible]辞ハ[illegible]れぬ
やうあれどもとぶれ[illegible]すけまきろく[illegible]ハ[illegible]
ず。助辞[illegible]を用ひ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

これハ女の[illegible]
[illegible]

○イカホドムスメトヱテモコトシタウタトヱテモ逢レウモノカイ
ドウデアハレルデハナイ ソレニヌシテモ〳〵 ムスブ手モタルイホド
セワ〳〵下紐カトケル 我侍ニキリニ人ニ逢ヒタウムフ時ニハ 下紐
カトケルモノヂヤトヱモ〳〵ヂヤガ ワレハナニホドアヒタウムフテ下
紐カトケタトヱテモ トテモ逢バレヘセヲバ 何ン センノナイコヂ
ヤニ あタタトウの流上白ようけ合とろ〳〵
いづく赤と人なるとあるとあるぶねのやくのたゆくふおおりふとろぞ
○イヤサ コレモ我タチワヤウニトガメテ下サルナイ ワレハ大キナ
舟浪ニユラレルヤウニ我ヒテウカラ〳〵トレテ居ルドセッチヤ

和名抄ニ波子ハケ
とまり ノうけくぶま
ぶくまあてとところき
だろぬめ名さ
ヨムヘシ

いでハ日本紀ニ屋
乞と云万葉ニハ
もの字のくことり
り

○ 袁ヨスルワレガ心ハイセノ海デ猟師ノ舟ヲヨスルウヂヤカレテ
フハラ〳〵トウカレテ レヅメウトムフテモドウモレヅメラレヌ 我ノ
ウチ上ヲモ人浪ニユラレテ スハラ〳〵トウキヤルク我チヤガ 心ガテ
ウドンヤウニサ

マレヤ アヂナ顔ツキニ見ニ元ハスチヤ

いセの海乃あまの為縄くちくくとのやゐひ波らん

○ 一二 袁ユヒニ長イ月日ヲ 此ヤウニシテナイフヤトバカリ心
フテタテルヿデアラウカ 千秋ニ、あまの海ろまいろ

ちもとへくくとつけたるハ竹とくさき縄よ釣の枝糸と
あまさつけそ。あの中へまくうちたへおきくくその縄をく
まよりあげそ。うの釣とくひくる魚ざるをくくりぎあり。
これ〻今世よりまをあがの釣といふハ竹縄の釣と
いろをを詭まくるもまよりくくハ竹ぐ形にるいろの
ちくちハくくくくるよのつねの釣ゆくハくくまハ
ぬとあり。

○涙川ト云川ノミナカミハトコデヤカトナゼヨフタイヤラ の川ノミ

渡川ヨリ下ハ竹ヨリ上ハ竹

身カラ出ハハサテ

たね〜あまぶ岩よも松ハおひふりく岩をくひハあぶくくあやハ

○タヲヲガアレバ岩ヘモ松ハ生ワイ スレヤナボ出来ヲタイ岩ヤイ

ニテモ隨今音ヲ拾ザヘレタヲヲ 逢ハレヌトヨリガアロカイ ドコゾ

デハアハレヌトヨリハアルマイ

あさまり〜たつ朝寒の中くふのくくちそあひれあくく世あくくく

○毎朝タツノ寒中ニウイテアルヤウニ イツモ落舟ヌ思ヒノアル

世ヤワイ

ナカミハドコデモナイ おヨロラ井ノ氏マレガ身ヂヤワイ ハテ涙ハ

ねをのミなく
とある上ハつるかねで
くれど寝子ハミだ
るゝの詞あるよ
しを見るべし

よひよひハ毎晩の
ことなり 枕さだむる
事ハ ゆめを見
たきなり

忘らるゝ時しなけれバあしたづのおもひみだれてねをのみぞなく

○ワスレラレル時ガナケレバ 三 イロイロト思ウテ泣テバカリ居ルワイヤ

から衣ひも夕ぐれになる時ハかへすがへすぞ人ハこひしき

○ 二 ひも 毎日ユフガタニナレバ カヘスガヘス カノ人ガ恋シイ

よひよひに枕さだめんかたもなしいかにねし夜か夢にみえけん

○イツゾヤ恋シイ人ヲ夢ニ見タガアツタガ 其夜ハドチラ枕ニ
ドウシテ寝タ時デアツタヤラ 思ヒダシテ見レド覚エヌ ソレデ
此ゴロモ毎晩毎晩ドウゾ夢ニ見タイト思ヘド ドチラ枕ニ寝ヨウカラ
ウヤラ 定メヤウガナイ

万葉にハ恋しくハ
なかなかに出て
のちとききしらぬて
れしくも旨
をあらひ本の
し

餘材抄にハ此上の句此詞と同
ひとくあるべし

恋しきに命をかふるものならバしにハやすくぞあるべかりける

○命ヲ此恋シサニカヘテ死ナルヽモノナラ 死ヌルハヤスイ
イツデモアラウ 此クルシサヲセウヨリ 死タガ
ハルカマシヂヤ

人の身もならはしものをあはずしていざ試ん恋やしぬると

○人ノ身ト云モノハナンデモナラハレガラナモノヂヤ 恋シイ人ニアハズ
ニ居テモツレガナラハレテ居ラルヽモカ 又ツレデ

ハコタヘライデ死ヌル物カドレヤ 達ハズニ居テタメレテアルヤウダ
あぶれどもうきものせんかずあるそふと誰よ強くん
○思フフヲ陸テ居ルハ世テモ苦レイニ 此ヤウニ入ニレラレズニ
心デバッカリ居フトエコレヲ 誰ニヨリ比語リタイモノチヤガ タレ
ニ語ラウヒ タレニモ語ラウ人ガイイ
本人世ものもたやかイすくめの事ふつれなき人と考へ忘りん
○イヒヒの早ウ来世ニ行テレ、ハヨイニ ソレタヲ武魂在自ノ、ハニシ
ナイ人ヲ昔コヒヤトモワウニ昔ヲ知ヤ、ヲタラコレホ
トニツラウハ忘ハレマイワヒ

いとまなくうよおさ
ふとそそぐこぐ
みやうあつきこれ
よのーきへーを
名れバとうふうを
忘ひまくしぐ

恋ん、ありね
とうふよおまじ
うねとつぶて名
ときを

泣れも子きへをちふとて出来のうへすまで忘ふまりうり
○アイソモナイ人ヲ恋レテ忘ライテアロレハ、アア 山中ニフコダニノ
ヒヒグホドニサテモ、大キナタメ息ヲツイテナゲイタイカナ
形ようぐめくよりもうるきハ忘 義人とありふあり名
○流ニテイクホヘ物ノ数ヲカキ トメルハ チッキ三消テ、ハ、ハ ナノ
センチイフチクアカタ、ギヤガ ソレヨリ、ダキツイラネノアカス
コハコナル名フテモクレヌ人ヲコチカラバッカリ忘フノギヤワイ
ワガ恋ハサウヂヤ ワイノ
人とろふ人ハ彩よあくねバ ヲのまぐぎよあくれさん

泣ぬ恋ふまるふ
ぎど

隣尊は旅だちの
子の恋を忍ぶん
こびて来ハこもんば
まあふべきのり
成来ハ来ずまあ
らぬくらす同ド

○人ヲ恋レウ君ノ心ハ 無心ヂヤケレド 私心デハナイヤラレテ
此世私身ノヨウナ人ニレヌ モシコノ心ガキツト 私心ニシガイテ
クバ 私身ノヨウノガシレヌト云フ ハナイハズヂヤ ワサテア恋
トニモノハカハツタモノヂヤ
恋ひやるきろひちるのやするおもふ身強くまあふ人の形さ
○人モナイハルカナ山ヘイタナラ道デ逢人モアルマイガ 罪ヴドンチ
モノデ ワレガ 恋レイ人ノコヲ 思ヒヤル 其心ノイシクモ ダン々ま
ウタルカレラヌ サウカレニノ アナコナイト君フテ 夢ヲ見テモ 思フ人
ニアフ夢ハ見ヌ おもて上白のことだぞへり

万葉子こひしまば
恋もしねぞやる
在この夜わ人まこ
まう人

夢のうちにも逢ふと見えしを新ころもうたゝねに思ふねんごろにも侍らし
○セメテハドウゾ夢ノウチニ逢フトナリトモ ヒルハ内カラソレヲ思ヒ込ミニ
シテ寝ラレタ夜ハ ドウゾ枕デドウゾ寝タナラ夢ニ見ユルヤウニ
ドウ寝タモノデアラウゾト 心ガ一ヨウテ ドウモ寝ラレヌガ
ナイ 鉢村お恋ふるよ結句を解ても上ぐるさへねね
しろう夢子こんなんをふおもひ言ぞくるべし
二心思ねとするこぞとおしきかたのよるはすがるもの夢子
○コレハマア 恋デ死ンデモヘトモ云フ 古ウチ 十マナカニ 夜ルハ目ヒ
トヨ夢ニ見エテ 思ヒヲサセテ ソレデ米ヒモ六子カラアルレデサ

淺川まさ〳〵流るゝきれまゝ愛まぐろ示ゑこんぞあり

○涙ガ川ノヤウデ挑ガ流レテ川舟ノ中デ浮テ寝ルヤウナ カウイウ浮寝デハ人ル愛モハツキリトハサ人エヌワイノ

嘉ずんバ愛ぐ多ハ影とあるよりさうとて人はそ愛のやゑ

○嘉ラスレバ ワレガ身ハ 此ヤウニヤセテ 影ノヤウニホソタワイ サウカ

トステ人ウ人漆ヒモセヌモノクセ井 影ナラ人ミソヒナモノ

ヤニ

かぐり火さあ〳〵愛ぐ多のあぐるろく淺の川はうきとゆゝん

○鵜飼舟カガリ火コヲ川ニ浮テモ元物ナレ カガリ火デモナイコト

ガ身ノナゼニアル 此ヤウナ涙ノ川ニウイテ 胸ニ火ガモエル

ヤラ

かぐり火さあ影と形る多のコビ〳〵き ハ添ぬとろ〳〵下ふ ゆゝろくかり

○川ヲ流レノタダル鵜飼舟カガリ火ノ影ワタ影ハ水ノ下ニモエル

ガワレモ ワレトソンナモノデ 嘉ニヤウレテ 影ノヤウニ多身ノ

ツライ難義ナコトハ 長イ月日ヲ 心ノ内デハカリムラテ ムナノ

モエルノイヤワイ

なんやき影よ人ゆゝ あ影ゼバ 多独の淺北川よう多ず 之のせ

○ミルメーニモノハ海ノ中ハ元モノヂヤガ ソレガ若シ川ノ早イ浦ヘハエ

テソダツナラ ワレガ袖ノ涙ノ川ヘウエウモノ ナゼナレヤ ワレガ涙ハ早

下よ もゆゝハ水ノ二ヤとのかゝ〳〵人の中 ゆゝ ゆゝろくんの中と ゆゝふとよ ゆゝかゝと ゆゝゆゝ

人作よハ五の白う 多ゝ元ゆゝ ゆゝとあ ゆゝゝ ゆゝゝの ゆゝ

イ浦ノヤウニ流レルワレテ　恋シイ人ニ逢フヿヲミルメト云ヒツケサ

おきべふもよろぼも藻の波ぢうふるぶれてのこや恋波るるこん

○ワレガ恋ハ沖方ヘモ磯ハタヘモヨラズニ浪ノ上デミダレテアル

藻ノヤウニドチラヘモツカズニ心ガ乱レテイツデモ此ヤウニ恋シ

イ〳〵トカラテバッカリ月日ヲタテルデアラウカ

あーぶものさるとぐ入江の恋〳〵波の恋〳〵や人をかくこひんとハ

○上人ヲ今ハ此ヤウニ恋シイカウト、カヒモヨラヌヿヨ

人ヲれぬ恋ひと恋ますまるぶふしの山こそ恋ずあ〳〵ろ

○常住人ニヒラサヌカヒヲスルワガ身ハ外ニ六十イ駿河ノ富士

ノ山ガサワニガ身ヂヤウイ　ナゼト云ノ三富士ノ山モ火ハモエズニ常住

烟ガウニテモ元ハサテ

どうぶ恋のこ恋も雪こ恋おく山のうきノ人をしこ〳〵ずや

○イカウ深ーオノ山デハ鳥ノ声モヒヌモノデヤガ　ソノクラ井ノ奥

山ホド深イ此ワレガ心ヲ　カラ人ハ井ウトハレラヌヤウカガ　ドウゾ知

テクレカシ

あ〳〵坂の中ほけ恋もこ〳〵ぶ〳〵人や恋〳〵きねのこ恋〳〵ん

○相坂ニハトレテアルアノ糸綿ヲツイタ雑モ人ガ恋シイヤラ　オレ

ト同ジヤウニ声ヲアゲテヒタスラ鳴　おなじ　おつけ　恋の歌

おなじ　ハ人恋〳〵

あんとあり

六帖ヨハトのあい
なぞ　もそこそこ
しろノくれとあり

ころ〳〵

逢坂の関を流るゝ水もしたぐあるふかめひこそすれ

○上 イハズニ居ルデコソアレ　心ニハタイテイ必フイデハナイ

うき草のうへハあらぬれる袖ぢかれやうきゝ人を恋る人のなきゝ

○ワレガ涼イ心底ハウヘニハ浮草ノシデツテ見エヌ淵ヂヤカシテ

山涼イ心底ヲ　人ガ知テクレヌ　フカイ一ガ見エヌサウナ

おもひぐくよりぐくよりぐくより

おなじこころあとのこころハ或人云〻ぶこゝろ同心結とゝ
やとあるこゝろよあれこゝろ此のこゝろ又今舟りふふこゝろと
こゝろと字ーあやまれるなり
春ハ〻ぶきゆるあの残りかく者ゞんハこゝろよとけかん
○春ニナレバ氷ノ残ラズトケルヤウニ君ガ心ハドウゾオクユヱノ家ニ
ウチトケヨカシ
あけたてゞ鶯のとり人ゝ時ゝしよゝ笠のりこゝろ成ま
○夜ガ明レバ昼ハ蝉ノヤウニヒガ十二日ナイテクラシ　夜ハ栄ヘチウ
ニ名ヒニモエテ夜ヲアカシテサ月日ヲ　タテルワイ

思ひを火ゝ手
ゝ伊のこゝろ
て子のゝ〻ぶ〻ふ
ハ〻ア飛蛾とも
男蛾ともいふもの
二夜もしの子をいゝぶ〻ふあ〻
○夏ハ比丘ノ父中ハトビコミデ　ツイ家身ヲムダニシテウノモ
大ヲ上ラウ上云フ名ヒラニヨッテイ　チウイ　人ノ表ヲスルノモテ
ド其通リデ人ニ心ヲカケテ　ツイ家身ヲシモテイケルコトヤ　ア
ア表ハスイ〻チヤジヤ
解打おゆゝとふひとろおひの孫ろ〻
名ぎれバ　ひゝ〻きゝ紬子袂の表さへおきゝハ〻ろ〻
そゝハ〻ふを延
〻ゝ引
○表ヲスレバ　タヾサヘ涙ガカワキ　ニライワレガ袖ヘ　ユヱタダニナレバ此時
前ノ表ノ二デガオキンシテサ　イヨ〻カワカヌ

[illegible]ハ小野集ニ文
てトの句あやしく
[illegible]秋のタベれとこ
[illegible]こうあやしくとゝハ
[illegible]ニ

ソウとても春ゝうゝハあるねぶも秋のタベあやしかりけり

○イツモヤト云テモ コヒシウナイト云ハナケレドモ ソノ内ニモトリワケテ秋ノ時分ノタベハ又カベツニドウモタヘラレヌワイ

秋の田れわさをゝ人をこひぎゝあぢろゝふ[illegible]れしもせん

○[二]サウト顕ハシテ[illegible]フリコヌスマイケレ心ニ何ノ[illegible]ハセヌ

秋の田のホのうゝを照すゝ月素の光のよゆも[illegible]

○秋ノ田ノ稲ノ穂ノ上ヘイトゴヤウニ光ルホドノ月ノ[illegible]

モロ〳〵オマヘノコヲ忘レルカイ ソレホドノ月モワスレハセヌゾイロヤ

ありゝ秋ゝふあやおもすゝきゝゝうゝホ出て来ぬもあゝん

涙雪ハあゝゝき雪とゝふゝとゝ春ゝうゝきらゝゝ冬ゝホもあり たまれバくそホたまれバえ拾ず とゝふこころゝ

○人目ヲハバカルあゝ[illegible]カイ オレハ何ニモ人目ヲハバカルフ[illegible]ノイニ アウケモナイニ アウケモナイ ヤウ ヤウタメニ此ウウニ[三]アヲハサズニバツカリ[illegible]テ居ロウゾ

あゝ雪のたまれバうゝふゝぐゝいゝゝゝゝぬゝひのあゝルきゝゝゝ

○涙雪ノタヘルカヽルレバ エタヘラズニ クダケテ消ゴルヤウニ オレハ心ガクダケテ此コヒハサテ〳〵モノ必ヒノレナイコカナ

おゝく山のすゝけれあのぎゝゝ雪のあゝとゝハゝそゝん春の春ゝきホ

○叶ヤウテハヒガシドノウテハ ドウモタマラヌニ [上]ワレハモウキユル死ヌル上ニテヤラウカイ

頭書古今和歌集素定後巻第七

古士之藏